

分布型音響センサ（DAS）による 社会インフラの見える化と防災活用

日時：2026年3月16日（月）13:30～16:25
東京科学大 大岡山キャンパス M-278（本館2F）

高度経済成長期以降に集中的に整備された社会インフラは、今後一斉に老朽化が進む一方で、気候変動の影響により豪雨・台風などの気象災害は激甚化・頻発化しています。これらの災害からくらしを守るため、インフラとその土台となる地盤の状態を平時から把握し、防災・減災へつなげることが重要です。近年、既設ファイバを含む通信用光ファイバをセンシング媒体として活用し、振動を広域・分布的に捉える分布型音響センサ（DAS）の研究開発が急速に進展しています。本シンポジウムでは DAS を中心とする光ファイバセンシングの最前線の専門家を招き、研究開発動向と社会インフラの見える化、将来の防災分野への活用可能性を議論します。

招待講演者

山手 勉（白山工業）

光ファイバセンシングの東電グループとしての取り組み

林 宏一（京都大学）

分布型音響計測（DAS）と三成分速度型地震計により得られた表面波探査および微動アレイ探査のデータの定量的な比較

藤原 広行（防災科研）

光ファイバDASと微動探査を用いた地盤モニタリング手法の開発

飯田 大輔（NTT）

通信用光ファイバを活用した光ファイバ振動センシング技術

岡本 圭司（鹿島建設）

通信網を媒介した光ファイバ計測によるインフラ群モニタリング